

## 利尻地元ガイドが見た携帯トイレ利用者の反応

渡辺敏哉（利尻自然ガイドサービス）

利尻山は日本最北の百名山として全国から年間約1万人の登山者が訪れます。それにともない登山者によるし尿問題も深刻な問題となっていました。そこで利尻富士町・利尻町が中心となって携帯トイレの普及に力を入れてきました。平成13年から17年まで両町では登山者に無料配布。そして平成18年からは有料化となり島内の宿泊施設やコンビニで販売を開始。携帯トイレブースもテント式のものからFRPの丸太風のもの、そして現在は木製の立派なもの（小屋）になっています。

私の会社ではガイド業の他に民宿も営んでいるため登山のお客さんの反応を身近に感じることができます。

チェックインの際に携帯トイレの購入を呼びかけても、どの登山者の方も快く購入していただき、驚くことにその購入率はほぼ100%です。

利尻山の携帯トイレの普及率は非常に高く「利尻山＝携帯トイレの山」という印象さえつき始めていることは行政や地元宿泊業者の努力の成果だと思います。

利尻山の場合、登山者のほとんどが最低でも1泊し宿泊施設を利用するというのも携帯トイレの普及につながった大きな要因だと思います。

また、団体登山ツアーにおける携帯トイレの所持率も非常に高く、駕泊コースの小屋裏や9合目のトイレブースでは順番待ちの行列をよく見かけます。

しかし、残念ながら携帯トイレの情報を全く知らない登山者もあり、登山道脇やトイレブースの網に直接してしまう人もたまに見かけます。

その原因として、利尻山の場合、早朝登山がほとんどで、携帯トイレを前日までに購入しなければなりません。

購入し忘れや、トイレブースの存在を知らなかった人たちのために登山口や避難小屋でいつでも購入できればもっと普及率はあがると思います。

例えば無人の「携帯トイレ貯金箱」のようなものを設置し、携帯トイレと引き換えにお金を入れてもらったりするのも良い方法かもしれません。

山岳ガイド業務においてお客さんは携帯トイレ使用未経験者がほとんどです。

使用前はちょっと抵抗があっても、いざ使ってみるとその快適さに驚く方も多くみられます。

次に使用に関しての印象ですが、男性と女性を比べた場合、圧倒的に女性の登山者の使用率が高いと思います。女性はほぼ全員が1～2回の使用で、そのほとんどは避難小屋に集中しています。

あくまでも私個人の印象ですが、「ある場所」で参加者全員が携帯トイレを使用するときを

10とした場合、「登り」「下り」での各場所では、次のようなイメージと思います。

登りの各場所での使用度は、

6.5 合目：「2」

避難小屋：「8」

9 合目：「4」

下りの各場所での使用度は、

9 合目：「1」

避難小屋：「6」

6.5 合目：「2」

という感じでしょうか。

参加者のなかには「これ最高ですね、他の山でも使います！」と携帯トイレを下山後に購入して帰る方もいるほどです。

利尻山のトイレブースはいつも綺麗で、登山者にとっては非常にありがたく、そして綺麗なトイレブースを維持することも重要なことだと思います。

これからも私たち地元の間が中心となって各方面に携帯トイレの持参・使用を呼びかけ、トイレ問題に悩む山を持つ全国の自治体の模範となって、いつまでも美しい利尻山を維持していくことが大切だと思います。

参考に利尻山登山道等維持管理連絡協議会で利尻山の登山マナーとして呼びかけている「利尻ルール」を添付します。利尻山に訪れてくれる多くの登山者が、この利尻ルールを守っていただけるようお願いしています。

混雑の緩和と利尻ルールの普及にご協力ください

平成 20 年 2 月 1 日

利尻山登山道等維持管理連絡協議会

1 企画・募集段階

● 1グループの人数を適正化してください

安全管理及び登山道保全の理由から、利尻山の登山ツアーは、引率者1名に対して被引率者4～6名程度の人数設定(1グループ最大12名まで+引率者)で実施することを推奨します(利尻山のコースグレードを、旅行業ツアー登山協議会設定の「コースグレード及びガイドレシオ参考表」の「5」相当とした場合)。

なお、被引率者多数の場合は、体力レベル(歩行ペース)などで班分けをして、時間差をつけて出発することも併せて推奨します。

● 事前案内に利尻ルールを掲載してください

● 参加者にストックのキャップを用意させてください(裏面の記事もお読み下さい)

● 登山計画書を提出してください

入山口を管轄する稚内警察署へ、引率者を含めたメンバー全員の連絡先等、必要事項を記入した登山計画書を提出してください。

● 現地の最新情報を入手してください(裏面の記事もお読み下さい)

2 実施段階

● 休憩やすれ違いは、適切な場所で行なってください

すれ違いや休憩時には、人数に見合った場所への誘導を行い、周辺植生への踏み込み防止を呼びかけてください。また混雑日には、他パーティーとも調整を図って、周辺の混雑緩和を促してください。

● 利尻ルールの普及にご協力ください

利尻ルール

- ① 携帯トイレを使う
- ② スtockにキャップをつける
- ③ 植物の上に座らない、踏み込まない

利尻ルールとは、当協議会が利尻山の登山マナーとして呼びかけている地域ルールです。

募集段階からの事前案内、登山出発前の再確認、登山中の指導を行い、利尻山に訪れるより多くの方に山にやさしい歩き方をしていただけるよう、普及にご協力ください。



利尻ルール呼びかけの背景 ～急速に進む登山道荒廃～



赤茶色に見える地層は、手で触れるだけで崩れ落ちるほど脆いため、足元には崩れた礫が散積しています。

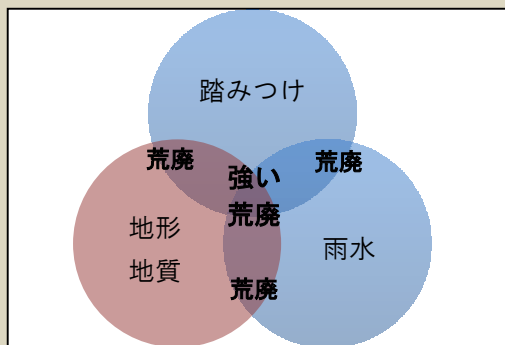


図 「登山道の荒廃要因の関係」 (橋本, 2003 を一部変更)

利尻山の登山道荒廃は、火山性の脆い地質に特徴があり、これが登山者の踏みつけによる裸地化の進行や、雨や雪どけ水による土壌洗掘の影響を増幅させています。特に9合目以上は、ここ10数年で急速に荒廃が進んでいます。当協議会では毎年登山道の維持補修に努めていますが、一度傷つけた自然を修復することは容易ではありません。そこで、登山者一人ひとりの登山マナーを向上させていくことで、踏みつけによる荒廃への影響を少しでも軽減させようというのが利尻ルール提案の背景であり、呼びかけの目的になっています。

# 登山ツアー実施の参考情報

## お知らせ

### 1 携帯トイレブースの増設と位置変更をしました

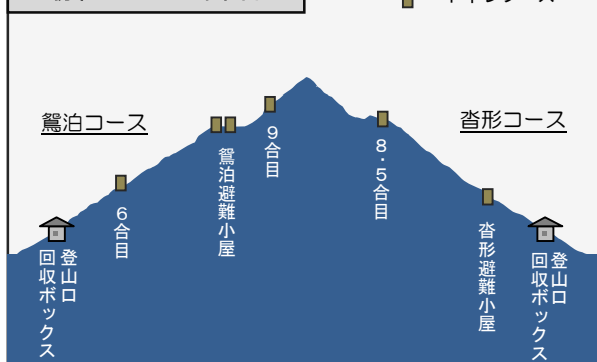
携帯トイレ普及促進のため、以下の通りトイレブースの増設と位置変更を行ないました。携帯トイレ本体は、従来通り島内各所で400円にて販売しています。

#### ▼ 平成19年度からの変更点

- ・ 鷺泊コース避難小屋脇に1基増設
- ・ 杵形コースの携帯トイレブースの位置を、1箇所変更  
旧：「夜明かしの坂（標高980m）」  
→ 新：「8,5合目（標高1380m）」

携帯トイレブース位置図

■ = トイレブース



- 携帯トイレは、島内各所で400円にて販売しています。
- 使用済み携帯トイレは、各登山口にある回収ボックスにお捨てください。

### 2 島内でストックキャップを販売しています

登山道浸食の軽減を目的として、昨年度より利尻島内でもストックのキャップを販売しています。下記の注意事項をお読みの上ご利用下さい。

#### ▼ スtockキャップ販売概要

- ・ 島内の宿泊施設及び、キャンプ場などで販売
- ・ 販売価格 315円（シナノ社製1本分）

#### 〈使用上の注意〉

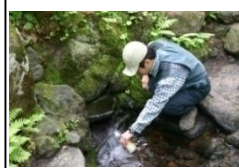
ストックのキャップは、メーカーによってサイズが異なります。シナノ社製のキャップは径が細く、押し込むことで大抵のモデルには装着可能ですが、他メーカーのキャップを装着したことによる事故について、メーカー及び利尻山登山道等維持管理連絡協議会では、責任を負いかねます。出発前に、ご自分の使用するメーカーのキャップをご用意ください。また、路面状況によってキャップの着脱を判断してください。

## 鷺泊コースの施設



#### ■ 登山口（北麓野営場）

キャンプ場、トイレ、水道、公衆電話あり。携帯トイレ回収ボックスを2つ設置しています。



#### ■ 甘露泉水

最北の日本100名水  
登山口から10分程度の場所にある湧き水で、利尻登山道で唯一の水場です。



#### ■ 携帯トイレブース

携帯トイレ専用  
袋状の携帯トイレを、便座にかぶせて使用します。設置場所は左図を確認すること。



#### ■ 鷺泊コース避難小屋

15人程度休憩可、周辺の環境保護のため、宿泊は原則禁止。  
小屋の裏側に携帯トイレブースを2基設置しています。

## 現地情報の入手先

### ● パンフレット類

利尻登山に関する各種パンフレット類を発行しています。利尻富士町、または利尻町役場商工観光係までお問い合わせください。

### ● ホームページでの情報配信

利尻富士町、利尻町、環境省利尻礼文サロベツ国立公園のホームページで、随時、現地の最新情報を更新しています。

### ● お問い合わせ

利尻富士町、または利尻町役場の各商工観光係までお問い合わせください。

利尻富士町役場	0163-82-1114
利尻町役場	0163-84-2345